



## 2023年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2022年8月5日

上場会社名 株式会社 ZOA

上場取引所 東

コード番号 3375 URL <http://www.zoa.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 伊井 一史

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理本部長 (氏名) 安井 明宏

TEL 055-922-1975

四半期報告書提出予定日 2022年8月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第1四半期の業績(2022年4月1日～2022年6月30日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	2,355	0.7	137	8.6	139	7.9	96	5.8
2022年3月期第1四半期	2,339	8.3	150	6.9	151	6.9	102	9.2

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	66.25	
2022年3月期第1四半期	70.30	

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	4,914	2,455	50.0
2022年3月期	5,373	2,429	45.2

(参考)自己資本 2023年3月期第1四半期 2,455百万円 2022年3月期 2,429百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		50.00	50.00
2023年3月期					
2023年3月期(予想)		0.00		50.00	50.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年3月期の業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	4,689	1.7	284	0.1	287	0.0	196	0.3	135.33
通期	9,700	0.9	537	6.4	543	6.3	370	6.9	254.47

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、添付資料P.6「2. 四半期財務諸表及び主な注記(3) 四半期財務諸表に関する注記事項(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期1Q	1,454,000 株	2022年3月期	1,454,000 株
期末自己株式数	2023年3月期1Q	株	2022年3月期	株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期1Q	1,454,000 株	2022年3月期1Q	1,454,000 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第1四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、ロシアによるウクライナ侵攻に伴うエネルギー価格の高騰や急激な円安による物価高騰、日本経済に悪影響を及ぼす事象が発生し、非常に厳しい状況となりました。加えて新型コロナウイルスの感染もさらに拡大傾向となり、先行き不透明な状況となりました。

パソコン業界においては、部材の供給不足や価格高騰の影響を受けており、また景気不安も相まって、買い控えの意識が高い状況となっております。

このような状況下で当社は、パソコン事業においては、eスポーツの広がりによる恩恵を受け、前期よりゲーミングパソコンの好調な販売が持続しており、当社のオリジナルブランドとして展開している「AEGISZ(エイジズ)」や人気ブランドのゲーミングパソコン「STORM(ストーム)」等の販売を強化することで、パソコン本体の売上高は前期を超える実績となりました。また、好評だった人気ユーチューバーとのコラボモデルも第3弾を投入し、引き続き好調な販売を続けております。

その他、ゲーミング用のキーボードやマウス、ヘッドセットやチェア等の周辺機器も好調に推移し、ゲーミングカテゴリ全体の底上げが図られています。

加えて、パソコン本体購入者に占めるサポートをご利用いただくお客様の比率が50%超の状況が続いており、当社の収益性を高めるとともに、お客様の満足度を高めることにもつながっております。

半面、前期はマイニングブームが再熱し、グラフィックボードの需要が急増したことで売上好調でありましたが、その反動減により今期は売上高が減少しました。

以上の結果、パソコン事業全体の売上高は1,265,200千円(前年同期比10.1%減)となりました。

バイク事業においては、通信販売へのシフトが継続的に続いており、店頭販売は減少傾向にあります。

以上の結果、バイク事業全体の売上高は94,378千円(前年同期比5.4%減)となりました。

インターネット通信販売事業においては、バイク用品が前年同期比33.4%の増加となり、通信販売全体の数字を牽引しました。特にバックやヘルメットが好調で、春から初夏のツーリングシーズンに合わせた商品展開が販売増加につながっております。

また、市場で一部品薄となっていたマザーボードを事前の状況・情報を元に確保していたため、通信販売の売上増加に貢献しました。それに付随して、組み立てパソコンのパーツ類も販売良好となりました。

その他、前期より取り組んでいた家具・インテリア商品の拡販が順調に拡大し、売上を押し上げることができました。

以上の結果、インターネット通信販売事業の売上高は918,258千円(前年同期比11.0%増)となりました。

その他、不動産事業の売上高は77,560千円(前年同期比1,246.5%増)となりました。今期より新たに立ち上げた事業で今後この分野にもさらに注力していく所存です。

売上高、売上総利益がともに前期を上回る結果になったものの、販売費及び一般管理費に関しては、昨今の物価上昇の影響を受けて前期比3.7%増加し、461,050千円となったことが減益の要因となりました。

以上の結果、当第1四半期累計期間の業績については、売上高2,355,397千円(前年同期比0.7%増)、経常利益139,666千円(前年同期比7.9%減)、四半期純利益96,335千円(前年同期比5.8%減)となりました。

なお、新型コロナウイルス感染症に伴う当社の業績に関して、現時点においては感染拡大傾向が続いており、収束時期を確実に見通せる状況にありませんが、各店舗における感染防止対策の徹底により現時点で当事業年度における影響は軽微であります。ただ、今後感染拡大により臨時休業や営業時間の短縮等が余儀なくされた場合には、売上高が減少して業績に大きな影響が出る可能性があります。その他、サプライチェーンに影響が出た場合、当社の想定通りに商品調達ができなくなることで売上高が減少する可能性もあります。

### (2) 財政状態に関する説明

#### ・資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べて459,505千円減少し、4,914,292千円となりました。その主たる要因は、商品が170,914千円増加し、現金及び預金が396,424千円、売掛金が275,638千円それぞれ減少したこと等によるものであります。

負債については、前事業年度末に比べて485,666千円減少し、2,458,614千円となりました。その主たる要因は、買掛金が316,077千円、長期借入金が100,007千円、未払法人税等が29,301千円それぞれ減少したこと等によるものであります。

純資産については、前事業年度末に比べて26,160千円増加し、2,455,677千円となりました。この結果、当第1四半期会計期間末における自己資本比率は50.0%となりました。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の業績予想につきましては、2022年5月13日に公表いたしました「2022年3月期 決算短信」に記載した業績予想から変更はございません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2022年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,173,620	777,196
売掛金	636,911	361,272
商品	1,708,778	1,879,693
販売用不動産	—	62,330
その他	225,700	149,851
貸倒引当金	△2,833	△1,345
流動資産合計	3,742,177	3,228,999
固定資産		
有形固定資産		
土地	859,758	859,758
その他(純額)	199,540	200,375
有形固定資産合計	1,059,298	1,060,134
無形固定資産	17,015	18,799
投資その他の資産	555,305	606,359
固定資産合計	1,631,620	1,685,292
資産合計	5,373,798	4,914,292
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	952,136	636,058
1年内返済予定の長期借入金	571,674	528,336
未払法人税等	76,935	47,634
賞与引当金	31,077	13,229
契約負債	253,225	259,928
その他	168,726	180,319
流動負債合計	2,053,775	1,665,506
固定負債		
長期借入金	785,500	685,493
長期未払金	4,133	4,133
退職給付引当金	100,872	103,481
固定負債合計	890,505	793,107
負債合計	2,944,280	2,458,614
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	331,986	331,986
資本剰余金	323,753	323,753
利益剰余金	1,774,117	1,797,753
株主資本合計	2,429,857	2,453,492
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△339	2,185
評価・換算差額等合計	△339	2,185
純資産合計	2,429,517	2,455,677
負債純資産合計	5,373,798	4,914,292

(2) 四半期損益計算書  
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	2,339,649	2,355,397
売上原価	1,744,872	1,757,022
売上総利益	594,777	598,374
販売費及び一般管理費	444,594	461,050
営業利益	150,182	137,323
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	283	1,353
受取手数料	1,907	1,850
その他	381	78
営業外収益合計	2,572	3,282
営業外費用		
支払利息	1,093	940
その他	31	0
営業外費用合計	1,125	940
経常利益	151,630	139,666
税引前四半期純利益	151,630	139,666
法人税等	49,407	43,330
四半期純利益	102,222	96,335

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は法人税等を含めて表示しております。